



いっしょにぼ
～JUNIORのコミュニケーション～

スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

家族の出番

いつも面接に来られる方(多くの場合は母親)以外の家族の方(父親や祖父母など)が相談に来ることで、物事が急激に進展していくことがあります。

例えばそれまで母親だけが子どもに関わり、相談の時には「家族は何もやってくれないし、わかってくれない」と話し、「子どもの障がいへの理解について家族の間での差があるのかな。家庭内では障がいに對しての理解があまりないのかな」という印象を受けることもあります。

しかし、いきさつは様々でも「家族」が相談の場に来て一緒に話しをすることで状況が変化したり、進展することもあります。

相談に来たことのない家族の方としても、子どもの状態や障がいについて理解をしようとする気持ちや考えはあつて

も、学校(保育園・幼稚園)での様子が伝わっていない、障がいについて知らないだけ、という場合もあるのです。そんな時、身近な専門家から子どもの特徴や「何故そうなのか」「今、ここでできることは何か」などを聞くことで、「あ、そういうことだったんですね」という言葉になることがあります。

子どもの普段の生活の様子から、「なんでそうなるのか」「わざとではないのか?」などの疑問や、ちよつとしたイラツキの原因などについて、検査を通して、その特徴や関わり方のコツを伝え、一緒に考えることで、「他に何かできることは?」とさらに話が展開していくことも多いものです。

理解を示しているようでも、どこかで抵抗を感じていた「受診」「服薬」や特別支援学級の体験や入級について、いつもとは違う方が相談の席に着くことで、積極的に「そうすることがいならば、それも一つかな」と、家族みんなで取り組もうという意識にもなるのです。

家族の理解や協力を得られるだけで、「一人で頑張っている」というガチガチに固まった気持ちや少しづつ溶け、支えや安心感を得られます。さらに、

「いつか自分でも決めなければならなかった」ことが、見通しについて共有できる強い味方ができるのです。

こうなると、日頃の家庭内での子どもとの関わり方にも少しづつ変化がでてきたり、家庭と学校(保育園・幼稚園)がより強く連携しながら工夫を重ねていくことで、良い変化があらわれてくるのです。

誰かが一人で頑張ったり、抱えたりするよりも、家族が話し合う場に同席し、一緒に子どものことを理解しようとするこ

とが大事なのです。
家族みんなで子どもを育てる意味でも、子どものより良い成長のためにも、家族の中で誰かに任せきりにすることのないように、ということを常に心に留めておきたいものです。



植物園だより

植物観察会のお知らせ

絶滅危惧植物を観察しよう

とき 5月10日(日)、24日(日)

10時30分から

11時30分まで

講師 植物園園長

内容

植物園が取り組む絶滅危惧植物の保存活動や、見頃の植物について紹介します。観覧会終了後、ミニ企画展等、展示館の見どころを解説します。

参加料 入園料のみ

*申し込み不要

*天候状況等により時間の短縮や観覧会を中止にする場合があります。

アサマキスゲ(ユウスゲ)の苗配布のお知らせ

入園者1人(入園券1枚)につき、植物園で育てたアサマキスゲの苗1株を300名様配布させていただきます。

とき 5月4日(月・祝)

9時から

入園料

小学生以上
1人1回100円
(展示館入館料含む)

問い合わせ

植物園 ☎48-3337

サクランソウ



今月上旬・中旬に、軽井沢町の町花サクランソウが園内各所で見頃を迎えます。

◆5月花ごよみ

上旬

アズマシヤクナゲ、コモロヤエベニシダレザクラ、サンカヨウ、タデスミレ、トガクシソウ、ニリンソウ、ヒカゲツツジ、ヤマブキソウ、ラショウモンカズラ

中旬

クマガイソウ、クリンソウ、シナノタンポポ、ツバメオモト、トウゴクミツバツツジ、ミヤマエンレイソウ、ヤマシヤクヤク、リュウキンカ、ルリソウ

下旬

キバナウツギ、クロミサンザシ、シロヤマブキ、スズラン、チョウウジソウ、ハイキンポウゲ、ベニドウダン、ミヤマキリシマ、ヤマツツジ、レンゲツツジ
(※主なものを掲載)